

2026/09/17

ICMRBS 2026 参加報告書

横浜国立大学 大学院理工学府 博士課程後期 2 年 中嶋悠人

この度、2026 年度第一回若手研究者渡航奨励金のご支援を賜り、2026 年 8 月 23 日から 27 日にかけてスイス・ダボスの Davos Congress Centre で開催された 31st International Conference on Magnetic Resonance in Biological Systems – ICMRBS 2026 に参加し、研究成果を発表する貴重な機会をいただきました。本学会への参加にあたり多大なるご支援をいただきました日本核磁気共鳴学会会長 伊藤隆先生、若手研究者渡航奨励金選考委員長 浅野敦志先生をはじめ、武田和行先生、木川隆則先生、ならびに本奨励金に携わられた関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

本学会は生体分子を対象とした NMR を主題とする国際会議であり、タンパク質をはじめとする幅広い研究対象について、世界各国の研究者による発表と議論が行われました。会場となったダボスはスイス東部の山岳地帯に位置し、周囲をアルプスの山々に囲まれた自然豊かな環境が印象的でした。このような環境の中で、連日、NMR に関する最新の研究成果に触れることができました。

私は、膜タンパク質の固体 NMR 測定におけるスペクトル分解能の向上を目的として研究を進めています。今回の口頭およびポスター発表では、超高速 160 kHz MAS 固体 NMR を用いて得られた膜タンパク質の ^1H NH スペクトルの分解能向上に関する結果を中心に報告しました。発表では、測定に用いた 0.4 mm ローターへの試料の充填方法や、スペクトルの線幅解析方法などについて質問をいただきました。自身では十分に検討できていなかった点についても議論することができ、今後の研究の方向性を考える上で有意義な機会となりました。

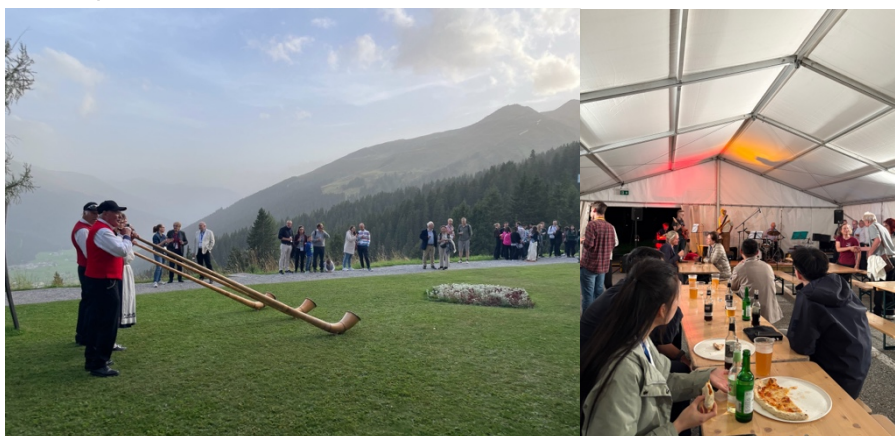
自身の発表以外にも、会期中には数多くの最先端の研究発表を聴講しました。特に、膜タンパク質やアミロイドタンパク質を対象として固体 NMR と分子動力学シミュレーションを組み合わせた研究や、DNP-NMR を用いた研究は非常に興味深く、自身の研究にも取り入れられる考え方や手法について学ぶことができました。また、講演やポスター発表だけでなく、休憩時間や食事の際にも国内外の研究者と研究について話す機会があり、研究分野や所属を越えた交流ができたことも、今回の学会参加で得られた大きな経験の一つです。Jam Session で著名な先生方が演奏を披露していたのは驚きでした。

今回、海外で開催される国際学会に参加し、自身の研究成果について直接議論するとともに、世界各国で進められている研究に触れたことで、今後の研究につながる多くの知見を得ることができました。本学会で得た経験や新たな視点を今後の研究活動に生かし、研究をさらに発展させていきたいと考えています。最後になりますが、このような貴重な機会をご支援いただきました日本核磁気共鳴学会ならびに関係者の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

【自身の発表】



【Banquet, Jam Session】



【ダボスの街並み】

